



序章 小牧市中心市街地グランドデザインとは

1 計画策定の背景と目的

小牧市（以下「本市」とする。）では、令和2（2020）年2月に「小牧市都市計画マスタープラン」を改定し、中心市街地である小牧駅周辺から市役所・小牧山周辺の一帯を全体構想における将来都市構造の中心拠点として位置づけ、広域的な都市機能の集積・充実を図り、様々な世代の居住ニーズに対応した住宅の供給を促進し、まちなか居住の促進を図ることとしています。

また、小牧駅前広場の再整備や有効活用等により、交通結節点の機能及び既存の地域資源（交流資源）を活かした交流人口の拡大や本市の玄関口にふさわしい景観の形成を図ることとしています。

さらに、地域別構想における中南部地域のまちづくり目標を「小牧山や中心市街地としての魅力を活かし、歩いて楽しめる活気あるまち」として魅力があふれ、多くの人が集まり回遊できる中心市街地の形成を目指すこととしています。

また、平成29（2017）年3月に「小牧市立地適正化計画」を策定し、小牧市都市計画マスタープランにおける中心拠点を都市機能誘導区域（高次都市サービス誘導区域）として設定し、集客力が高く、幅広い利用者層が見込まれる広域的な都市機能の誘導・集積を図ることとしています。

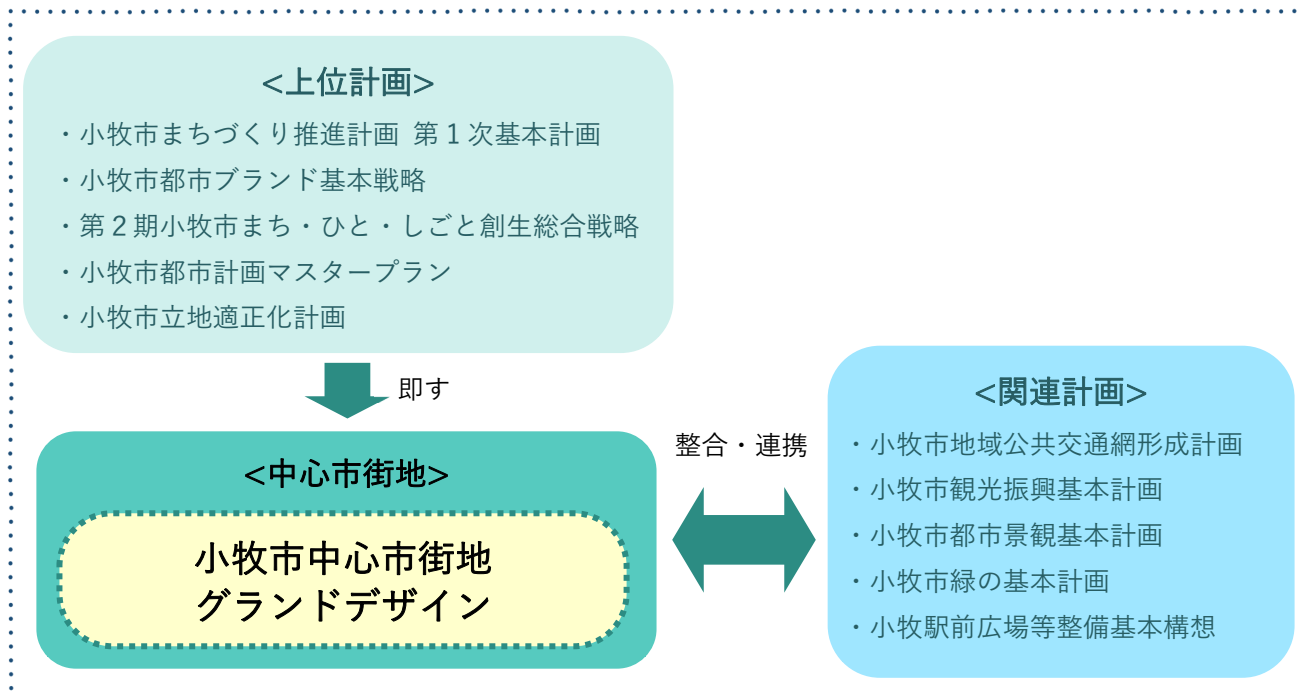
しかしながら近年は、居住者の高齢化や空き家・空き店舗数の増加など中心市街地の活力低下への対策が課題となっており、今後は、小牧駅周辺に新たに整備されたこまきこども未来館（以下「こども未来館」とする。）や小牧市中央図書館（以下「中央図書館」とする。）等の施設に訪れた人が小牧山まで歩いて楽しめるまちなかを形成し、将来にわたって魅力と活力の続く中心市街地を目指すために「小牧市中心市街地グランドデザイン」を策定して中心市街地のまちづくりの方向性を示します。

2 グランドデザインとは

公共交通の主要な結節点である小牧駅周辺から本市のシンボルである小牧山にかけてのエリアにおいて、充実しつつある拠点的な都市機能の基盤を有効活用し、にぎわいと活気に満ちた中心市街地としていくための将来像を「グランドデザイン」として示します。このグランドデザインに沿って今後進める中心市街地のまちづくりによって、小牧市都市計画マスタープランで定めた都市づくりの目標の実現を目指します。

3 計画の位置づけ

中心市街地グランドデザイン他計画との関係性・位置づけは以下のとおりであり、上位計画についてはこれらに即し、また、関連計画については各計画との整合性や相互の連携に留意したうえで中心市街地のまちづくりを進めることとします。



4 SDGsとの関連性

「SDGs（エスディージーズ：持続可能な開発目標）」とは、平成27（2015）年9月の国連サミットで採択された、平成28（2016）年から令和12（2030）年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。

本市では、市の最上位計画である「小牧市まちづくり推進計画 第1次基本計画」において、SDGsに掲げられた17の目標と本市で取り組む施策との関係性を整理、明示しております。また、令和3（2021）年5月には、持続可能な開発を実現するポテンシャルが高い都市として、内閣府より「SDGs未来都市」

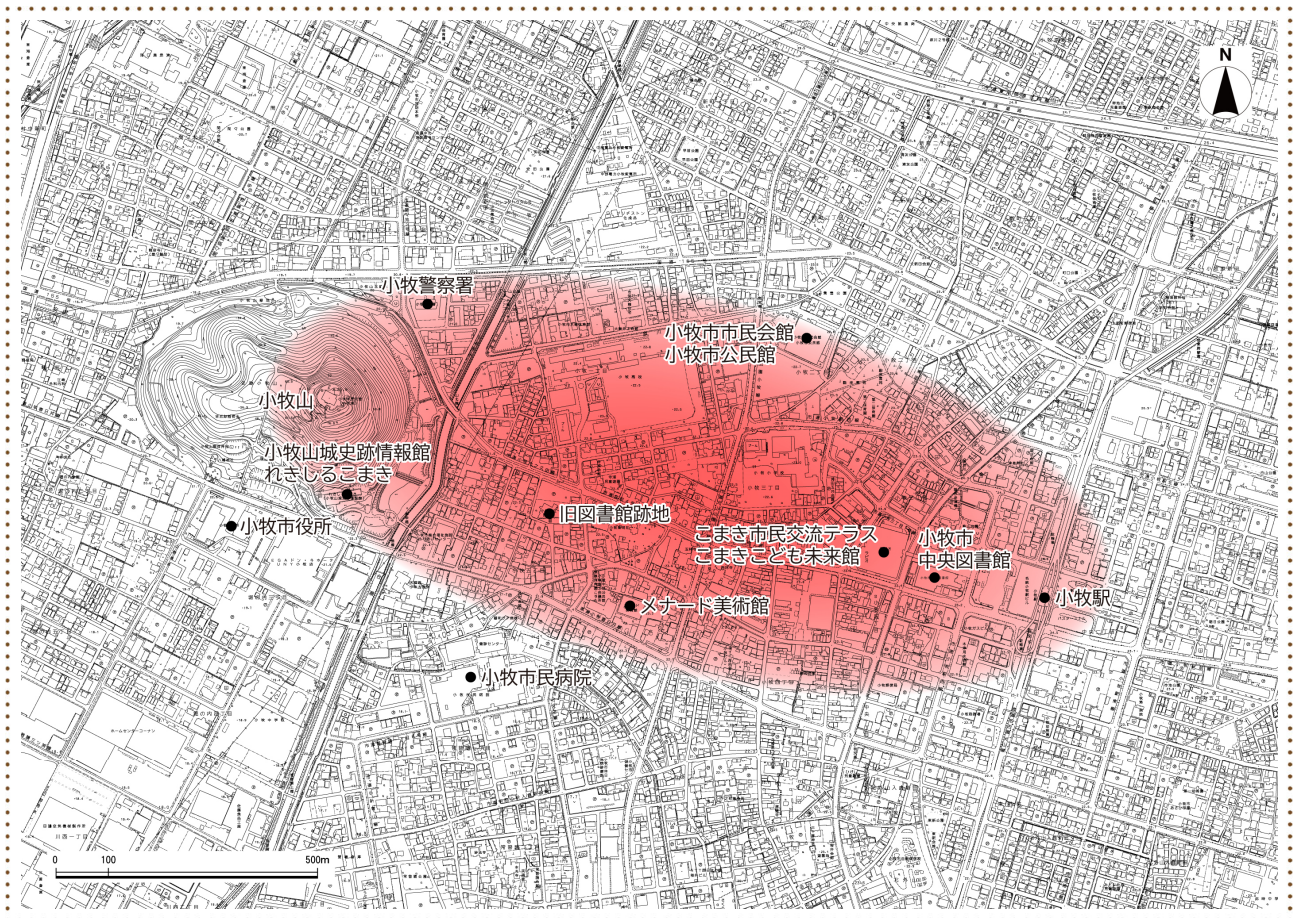
に選定されました。本計画においても同様にSDGsの達成に寄与する取組を進めていくこととします。



5 計画の対象範囲

本計画の対象範囲としては、小牧市都市計画マスタープランで位置づけられた「中心拠点」のエリアのうち、特に以下にあげる重要な都市機能を包含するエリアとします。

- ・公共交通ネットワークの結節機能を持つ名鉄小牧駅
- ・訪れた人にとって交流や情報発信の場として連携すべき小牧駅前広場、こども未来館、中央図書館、小牧山城史跡情報館れきしるこまき（以下「れきしるこまき」とする。）などの公共施設や、民間文化芸術施設（メナード美術館）
- ・本市のシンボルである小牧山



6 計画の期間

本計画は、概ね 20 年後の都市の姿を展望しつつ、概ね 10 年後である令和 14（2032）年を目標年次とします。

